

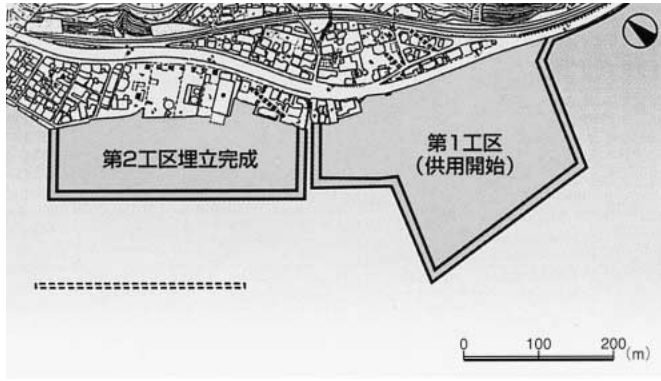
# 松浜港整備・第2工区は



したにし かつひこ  
**下西 勝彦 議員**

**問** 糸崎松浜港の整備計画は、遠く昭和47年頃第一次整備計画が策定された。

しかし、この地区の水際線は、私有地が多く着工は難航し、平成4年当時の市長が、糸崎神社前面の海を埋め立てる案に変更した。



松浜地区の整備計画図

また、木原バイパスの建

設発生土の受け入れ地も念頭にして、速やかに整備するよう、県と連携して、鋭意進めていきたい。

## 三原市義務教育の「金のルール」は、靴そろえなのか

**問** 大阪府は、私立高校の授業料無償化を実施した。その結果、授業料が安いというメリットが無くなる

となると、保護者が私立を選択し、府立高校の定員割れが続出した。義務教育の「金のルール」は、学力向上ではないのか。教育長は、知・徳・体の、どれが一番重要と考えているか。

**答** 子供たちの学習意欲や学力の定着を下支えする生活の基本として、金のルールを発表した。子育てのための金のルールで、家庭における基本的な生活習慣の乱れを正す取り組みだ。

知・徳・体のバランスが必要だが、三原の子供の現状を分析すると当面の部分を重点課題として位置づけたい。

# 小・中学校の入・退校記録の扱いと状況は



まさひら ともひろ  
**政平 智春 議員**

**問** 2009年から各校現場で入退校記録簿をつけることになっている。教育委員会として、どのように把握をし、過重勤務実態について分析をしているか。

超過勤務の多さは、教職員の健康管理、とりわけメンタル面における疾病の原因となるものだ。3月議会での答弁では、本市の病気休職率は、小学校で1・7%、中学校で1・8%とのことだった。県全体の0・9%を大きく上回っており、本市の勤務実態の厳しさが表れている。

**答** 衛生委員会の実態はどうか。入退校時刻の記録は、教職員の勤務状況と教職員がみずからの健康の状況を認識することを目的としたものである。

毎年度4月と2月については、すべての記録表

出されるが、その時点で該当の地域へどのような方法で周知をするか。

大雨の中、確実に個々の家庭に届く方法として、防災無線の設置は考えているか。

**答** 避難情報については、現在の各種の情報伝達手段を適時適切に行うこととしているが、市内すべての地域において十分な状況とはなっていない。

防災無線は、情報伝達の即時性や確実性、回線の信頼性など多くのメリットがあり、災害時の情報伝達手段の最も有効な方式の一つだ。

本市においては、旧大和町で整備されている。今後、情報基盤整備事業により整備された光ケーブルネットワークの活用を検討することも含め、防災無線等による同時通報システムの整備手法や優先的に整備する地域、

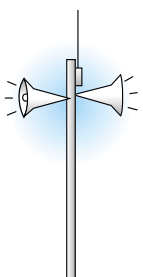
年次計画及び平常時での利活用について研究、検討していく。

## 緊急時、

## 防災無線の設置は

**問** 本市において、最も起こり得る可能性の高い災害は、やはり大雨による水害だ。

災害時、避難勧告や避難命令、避難指示などが



# 教育行政の基本方針について 児童生徒の学力向上は



仁にのおのかかののりりゆゆき  
**仁ノ岡 範之 議員**

**問** 教育長は、6月定例議会において、『本市の教育行政の基本方針は、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成をめざして「受けてみたい三原の教育」をスローガンに、3点の重要施策 ① 児童生徒の学力向上 ② 幼少中連携教育の充実 ③ 子育て金のルールの徹底を推進する』と述べた。

これは、親や保護者をはじめ、多くの市民の願うところである。特に今回、児童生徒の学力向上についての取り組み状況と成果を具体的に問う。

**答** 本市の取り組み状況は小・中学校において、①授業改善に向けた校内研修を中心に、学力向上の取り組み ②課題分析を基に開発した学習教材を活用し、自己の課題に応じて弱点を克服する学

習 ③「基礎・基本」定着のための繰り返し学習を徹底するなど、地道な学習指導の積み重ねを行っている。

特に、授業改善については「教育創造プラン推進事業」を活用し、本市の学力向上の中核的取り組みとして授業改善等を推進し、教員の指導力向上に成果をあげている。

次に、子どもの学力実態を検証する指標の一つとして、県が毎年実施する「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、小学校は、国語・算数の2教科合計で、昨年度は県平均を3・1ポイント下回っていたが、



意欲的に学習に取り組む児童

今年度は県平均を7・9ポイント上回っている。中学校は、国語・数学・英語の3教科合計で県平均2・1ポイント上回っていたが、今年度は7・8ポイント上回っている。県内23市町の中で小学校はトップ5に位置する成果を出し、中学校も11位と、いずれも上位に位置しており、着実に成果があがっている。

今後、「受けてみたい三原で教育を」、「県内トップレベルの学力定着と信頼される学校づくり」を掲げ、取り組んでいく。

# 人口減少傾向に対する歯止め策について



なかむら よしお  
**中村 芳雄 議員**

**問** 本市の人口減少の実態と、今後の見通しはどのような傾向にあるか。

**答** 合併時は約10万4千人であったが、現在、約10万人で既に4千人減少し、平成27年度には9万7千人と予測されており、今後、更に減少傾向にある。

**問** 人口減少の歯止め策として、企業誘致による雇用の拡大や、観光面などを充実すべきであり、そのためにも、まず駅前東館跡地を活用した、活力ある町の再生が急務であるが、どのように考えているか。

**答** 企業誘致活動に取り組んでいるが、特に企業からは従業員を市内に住みやすくするため、町の賑わいや活気ある町の整備、教育環境を充実して欲しい等の要望を受けている。市として企業で働く人達が市内に住み続け

たい、活力に満ちた暮らしやすい町づくり、そして安心して子どもを入学させることのできる教育環境の整備に努めていく。また観光資源を生かし、新たな観光振興や活性化の取り組みが必要と考えている。

そのためにも、三原を訪れた人達が、観光や市の魅力などの情報に触れられる拠点を、駅前東館跡地に整備し、交流人口の増加を促すことで、ひいては定住人口増加につなげたい。

**問** 行政運営は、将来が厳しいことを想定し「守り」に入る場合もあるが、時に「攻め」の対策も必要では



活性化策が検討されている三原駅前

ないか。それが駅前東館跡地の活用であり、人口減少の歯止め策と考えるがどうか。

**答** 全国的にも少子高齢化により人口減少が進行していくなか、手をこまねいている状況ではなく、まちを活性化させ、活力と魅力ある町を実現することが、市民の生活を満足させ、市外からも住みたいと思われる町になる条件と考えている。

その一つの手段として駅前東館跡地を活用した活性化の方針を提案しており、今後も様々な活性化策に取り組んでいく。



## 市長の発言について



りきたちゅうち  
**力田 忠七 議員**

**問** 新庁舎建設に関して、市長から発信される言葉に一貫性がないこと、発言された内容が軽々しく変更されたこと、更に市民への周知不足が、庁舎建設反対運動の大きな要因であると受け止めている。

私自身が軽率な発言とか、発言に責任を持つていないというふうには思っていないが、軽々な発言と受け止められたとしたら、今後十分注意したい。

当初、帝人用地1万5千㎡を必要と主張しながら、突然に駅前東館跡地5千9百㎡に変更した。市長は自らの言葉に責任があると思うが。

**答** 前回の特別委員会では、庁舎と駐車場等で、広大な面積が必要なため帝人用地をお願いした。今回は、大きな変化の中で、帝人用地と駅前東館跡地の活用を提案している。面積を容積に変えてつじつま合わせをして計画を変更したのではない。その経過で説明が不十分だったり、また不明であったりした点があったらお詫びする。また

の解決と方向性を検討してほしい。

## 庁舎建設は住民投票で

**問** 昨年11月に駅前東館跡地に市役所移転計画が発表され一気に話題となった。

しかし、市長は市民の意見を求めようとせず、アンケートも取らず、市民への周知を図らずして、二言目には市議会にお願いしている旨の発言を繰り返している。議会も市民の賛同が得られないものを求められても慎重にならざるを得ない。この計画は百年の大計を決する大事業であり、市民合意形成が極めて強く求められる。よって、この判断は住民投票に委ねるのが賢明と思うが見解を求めらる。

**答** 帝人用地と駅前跡地の活用は、今提案していることが将来の三原にとって好ましく、これを戦いの構図という受け止めてはしていない。十分な議論の上、結論を導きたい。そのようなことから、やはり議会中心にこの問題を

**答** これまで、地方自治制度の根幹である議会制民主主義に基づき、市民代表である議会と十分に論議を尽くして方針決定を行ってきた。これからのまちづくりには大きな影響を及ぼす今回の件は、まず議会において方向性を示してほしい。

## 魅力あるまちづくりについて



やました えいいち  
**山下 栄一 議員**

**問** 空港と三原港を生かした、魅力あるまちづくりとその推進体制を問う。現在、本市は発展か衰退かの分岐点にあると考える。

市長は本市の発展のため、また、中心の市街地の発展のために、駅前到新庁舎と民間事業者が一体となった、複合施設を計画している。この時を

生かし、本市の二大利点である、広島国際空港と三原港を生かした、魅力あるまちづくりを本格的に計画してはどうか。

**答** 現在提案している帝人用地と駅前東館跡地の活用は、市の諸問題の解決と活性化、それを支える財政という問題をトータルで考え、今これらに取り組むことが将来の魅



広島空港を生かしたまちづくりを

力のあるまちづくりにとって不可欠であると判断し、提案したものである。今取り組まなければ、さらに少子高齢化が進む将来の世代に大きな課題と財政負担、そして、空洞化し魅力のない中心市街地を残すことになり、そうした道は私たちの責任として選んではいけないと判断した結果である。

空港や港、そして海という強みについても、その活用をしっかりと考え、今から取り組むことで、将来の魅力あるまちづくりの実現につながるものと考えている。

また、市に不足していた情報発信やおもてなし体制など、新たな強みを駅前跡地に整備したいと考えており、そのことが空港を生かした観光や国際交流、港、海を生かした賑わい、観光交流の拠点などの実現につながる。今後とも幅広い意見を聞き、建設的な議論を通じて、魅力あるまちづくりを進めていくことが必要だと考えている。